

第5章 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点1：学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表

評価の視点2：下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定

- ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
- ・入学希望者に求める水準等の判定方法

本学においては、建学の精神である「科学技術に基づく医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」に則り、時代の求める高い専門性、豊かな人間性及び教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点から総合的に探求できる人材の育成を図ることを理念・目的としており、学生の受け入れに当たっては、学部・大学院ともこれらの理念・目的「入学者受け入れの方針」を大学案内及び学生募集要項、大学ホームページに明記している（資料5-1）。

「入学者受け入れの方針」においては、本学としての求める学生像を明記しているほか、各学部学科がそれぞれ入学者に求めるメッセージを記載するとともに、それぞれの学科での入学者選抜の方法や評価の視点、教育の目的に合う能力の指標などを明示している。

また、本学の認知度の向上を図るため、高校や塾等への広報活動（高校を訪問して出張講義を実施、オープンキャンパスでの模擬授業や入試問題の出題傾向と対策講座等の実施等）を積極的に行う一方で、大学案内及び大学紹介パンフレット等の記載内容、大学ホームページへの掲載内容等の充実を図っている。

平成29年度において、新たに和歌山看護学部及び千葉看護学部が平成30年4月の開設認可を取得したことから、これらにおいても同様に「入学者受け入れの方針」を定め、大学案内、学生募集要項、大学ホームページ等で公表したほか、両学部の進学ガイダンス及び入試説明会において周知を図っている。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点1：学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定

評価の視点2：入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備

評価の視点3：公正な入学者選抜の実施

評価の視点4：入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

既存学部である医療保健学部、東が丘・立川看護学部のみならず、新設学部である千葉看護学部、和歌山看護学部においても「入学者受け入れの方針」に定めるとおり、学力を

構成する 3 つの要素である、ア)知識・技能、イ)思考力・判断力・表現力等、ウ)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度に基づき、意欲と能力のある学生を受け入れるために、推薦入試、一般入試、大学入試センター試験利用入試など多様な入学者選抜方法を実施しており、それぞれ学部の入学試験について募集人員、出願資格、試験日程及び選考方法を学生募集要項に明示している（資料 1-6）。

平成 30 年度入学者選抜試験においては、より多様な入学者選抜を目指し、医療保健学部の入試実施委員会、東が丘・立川看護学部の入試委員会を中心に、全学的な一般入試での入学者選抜試験について検討を行い、以下の見直し・改正を実施した（資料 2-12、2-13）。

- ア)一般入試前期日程、一般入試後期日程の見直しを行い、一般入試による入学者選抜を A 日程、B 日程、C 日程の 3 回に改正。
- イ)上記の日程見直しに伴い、A 日程は必須科目（英語）＋選択科目 1 科目の 2 科目入試、B 日程と C 日程は必須科目（英語）＋選択科目 2 科目の 3 科目入試に改正。（ただし、和歌山看護学部では、C 日程は A 日程と同様の 2 科目入試で実施）
- ウ)A 日程は希望する学科を一つの学科に絞る「単願方式」とする一方、B 日程と C 日程はこれまでの一般入試前期・後期と同様に複数の学科を同時に受験できる「併願方式」の選抜を継続。

また、学生募集要項においては、各学部学科の「入学者受け入れの方針」を明示することで、各学科が求めている学生像をより具体的に明記するとともに、各入試における選考方法や試験科目の配点を明らかにし公正な入学者選抜が行われる透明性を確保している。

さらに、AO入試、推薦入試においては、自己推薦書、課題論文、小論文、総合問題等の評価の視点や評価基準、面接での着眼点なども表記し公正な入学者選抜の実施を心掛けている。視覚、聴覚などに配慮を要する入学希望者に対しては、入学試験実施の際に本学としてできる限り配慮し入学者選抜を行うとともに、入学後においては各学科の協力体制の下、着席場所の指定、周囲の学生サポートなど可能な範囲での配慮策を講じている。

入学者選抜試験の実施内容については、学部・研究科等の特色・特徴等を踏まえ、試験問題について「入学者受け入れの方針」に基づき適切に作成することとし、試験問題にミス等が生じないようにチェック体制を徹底している。また、試験会場において、入試実施上の注意事項の徹底を図り、試験監督を厳正に行うなど入学者選抜試験及び関係業務を公正かつ適切に実施している（大学基礎データ表 2、大学基礎データ表 3）。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点1：入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

< 学士課程 >

- ・ 入学定員に対する入学者数比率
- ・ 編入学定員に対する編入学生数比率
- ・ 収容定員に対する在籍学生数比率
- ・ 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

< 修士課程、博士課程 >

- ・ 収容定員に対する在籍学生数比率

本学においては、毎年度入学定員に基づき適切な入学者数を受け入れており、平成 29 年度の学士課程においては、特に医療保健学部の医療情報学科及び医療栄養学科において募集定員を下回る入学生に留まったが、医療保健学部の入学者数比率は 1.00 と募集定員を確保している。また大学全体の入学者数比率も 1.04 であり、入学定員に対して適正な入学者数を受け入れている(下表：入学者数比率)。

平成 29 年度の学士課程の収容定員に対する在籍学生数比率は医療情報学科で収容定員割れの状況となっているが、医療保健学部の在籍学生数比率は 1.02 であり学士課程全体としても 1.05 となっており適正な学生数となっている(下表：在籍学生数比率)。

大学院研究科における在籍学生数比率は、下表のとおり収容定員を充足する大学院生数となっている。

募集定員に対する学部合計の入学者数比率
(平成 29 年 5 月 1 日現在)

学部	学科	平成 29 年度 募集定員	入学学生数	募集定員に 対する入学 者数比率
医療保健学部	看護学科	100	125	1.25
	医療栄養学科	100	98	0.98
	医療情報学科	80	58	0.73
医療保健学部 合計		280	281	1.00
東が丘・立川看護学部	看護学科	200	217	1.08
学部合計		480	498	1.04

収容定員に対する学部合計及び大学院合計の在籍学生数比率
(平成 29 年 5 月 1 日現在)

学部・研究科	学科・専攻	平成 29 年度 収容定員	在籍学生数	収容定員に 対する在籍 学生数比率
医療保健学部	看護学科	400	467	1.17
	医療栄養学科	400	417	1.04
	医療情報学科	320	260	0.81
医療保健学部 合計		1,120	1,144	1.02
東が丘・立川看護学部	看護学科	800	863	1.08
学部合計		1,920	2,007	1.05
医療保健学研究科	修士課程医療保健学専攻	50	64	1.28
医療保健学研究科	博士課程医療保健学専攻	12	16	1.33
看護学研究科	修士課程看護学専攻	60	61	1.02
看護学研究科	博士課程看護学専攻	6	8	1.33
大学院合計		128	149	1.16

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点 1：適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

評価の視点 2：点検・評価結果に基づく改善・向上

本学では平成 20 年度以降毎年度自己点検・評価を行っており、その中で学生の受け入れに関しても定期的に点検・評価を行っている。さらに、学外有識者 5 名で構成され、年 3 回開催される「スクリュウ委員会」において、本学の教育研究関連の課題について外部からの評価・提言を受ける体制にもなっている。学生の受け入れの適切性についてもこのような内部（自己点検・評価）、外部の両面からの点検・評価・提言を踏まえて、継続的に検証を行い改善・向上に努めている。

開学以降、学部及び大学院とも入学定員を充足して学生を受け入れており、これは本学の教育理念・教育目的が社会一般から高い評価を得ていることの現れと言える。

また、看護学科においては、医療保健学部、東が丘・立川看護学部の両看護学科における着実な看護職人材の育成の取り組み実績により、平成 30 年度に新たに千葉看護学部、和歌山看護学部の開設が実現しており、医療系大学としての発展の証となっている。

入学者選抜にあたっては、AO入試・推薦入試・一般入試・大学入試センター試験利用入試など多様な入試を実施しているが、近年の動向も踏まえつつ平成 28 年度、平成 29 年度にそれぞれ見直し・改正を行い、より適切な入学者選抜を実施できるよう努めている（資料 5-2）。

(2)長所・特色

本学は、建学の精神に基づき平成 17 年に開学以降、今日まで医療系大学として着実に前進を続けてきている。この間、入試広報部の学生募集担当者の高校訪問による学生募集を根幹に据え、関東・甲信越地域を中心に高校教員との直接対話により本学の求める学生像の説明や具体化に尽力するとともに、各高校からの要望や意見等を集約することで高校との信頼関係を築き上げ「絆」を強くすることを念頭に活動を行っている。

また、入学者の受け入れにおいても上記のような多くの高校からの要望事項も踏まえ、多様な人材の入学及び育成を図るべく A O 入試、推薦入試、一般入試、大学入試センター試験利用入試など様々な入試区分での入学者選抜を行っている。これらの入学者選抜方法については、毎年の入試状況の確認を行いつつ必要に応じて選抜方法の見直しに取り組んでいる。

(3)問題点

現在、次のような点について本学が取り組む課題として認識し対応を進めていきたい。

「高大接続システム改革」に基づく入学者の受け入れ方法の検討について、現在の最大の課題として取り組んでいる。同改革で求められている英語の外部試験の利用や、4 技能（英語の 4 技能：聞く、話す、読む、書く）評価の方法、一般入試における記述式問題の導入の可否、学校推薦型入試（現推薦入試）、総合型入試（現 A O 入試）への対応など、全学での組織であるアドミッション委員会の中で早急に検討を進めていきたい。

また、志願者が減少傾向にある医療情報学科の意義を理解いただくため、高校を訪問し出前授業を開催する等、これまでの募集活動を検証しさらに多角的な取り組みを推進するために「情報教育研究センター」を平成 30 年 4 月に立ち上げたところである。

さらに「国際交流に関する基本方針」の下に、本学の国際化を図り国際的通用性の高い教育研究を推進するため、海外からの留学生・研究生の受け入れ方策について、海外大学との交流協定の締結や受け入れ環境（授業料等経費面の配慮など）を検討していきたい。

(4)全体のまとめ

本学では、平成 17 年の開学以降建学の精神や教育理念・教育目的に基づいた大学教育活動を着実に進めており、平成 22 年 4 月に東が丘看護学部（平成 26 年に東が丘・立川看護学部）に改称、平成 30 年 4 月に千葉看護学部、和歌山看護学部をそれぞれ開設したことは、本学での開学以降の取り組みが周辺環境からのニーズに応え、社会一般からの高い評価を反映したことの大きな現れと言える。当初 1 学部 3 学科でスタートした大学が、今日では 4 学部 6 学科の医療系大学としてこれからの日本の医療・保健の発展に大きく寄与できるものと思料する。とりわけ看護職の養成という観点で見れば、4 学部で 490 名の入学定員を擁する大学となり、看護職の養成大学としては国内最大規模の大学に成長してきている。

今後も教育理念・教育目的に叶った大学教育に専念していくが、高大接続システム改革が要請されていることから、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を踏まえた入学者受け入れの方針において、学力の 3 要素に関し、入学希望者に求める能力の適切な入学者選抜の改善を推進していく。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）について

東京医療保健大学は、医療の現場に強く、豊かな国際感覚を備え、医療の情報化に対応し、他の専門職と協働してチーム医療を実現できる人材を育成いたしますが、入学者には次のような資質が求められます。

1. 寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を有すること。
2. 基礎学力と豊かな教養の上に、専門性への探究心を有すること。
3. 自ら課題を設定し、調べ、考えて問題解決を図ろうとすること。
4. 何事にも積極的に取り組むことができること。
5. コミュニケーション能力・表現力が豊かで、他と協調して物事を達成できること。
6. 社会の動きに関心を持ち、医療を幅広い視野で見ようとする事。
7. 科学技術の進歩に関心を持ち、医療の情報化・国際化に意欲を持って取り組むこと。

本学では、以上のような資質を有する学生を選抜するために、一般入試の他に、AO方式による入試、推薦入試、大学入試センター試験利用入試などの実施により多様な入学者選抜を行います。

これらの入学者選抜においては、①「知識・技能」 ②「思考力・判断力・表現力」 ③「主体性・多様性・協働性」という「確かな学力」を把握するとともに、各学科の教育・人材育成の目的にかなう能力・資質・意欲・適性等を判断するため、試験種別ごとに個別学力検査、大学入試センター試験、調査書、小論文、総合問題、基礎テスト、面接などを組み合わせ、多面的・総合的に評価を行います。

【医療保健学部 看護学科】

看護学科は、大学での看護の学びを、将来看護の実践に活かすという明確な意思と意欲を持った学生を求めています。では、それにふさわしい要素とはどのようなものでしょうか。もし皆さんや皆さんの家族が看護を受ける立場になった時、どのような看護師さんに看護してほしいと思いますか。

看護は、その人の視点に立って、心を思いやり、痛みを分かち合うことのできる人間的な温かさと豊かな知識、感性に裏打ちされた行動力、責任感、高い倫理性が求められています。そのためには、まず基礎学力の上に、自分の意見の表出や他者との交流を通して、厳しい中にも学ぶ楽しさを育てることのできる意欲と自律性を持った人が必要です。その理由は、看護の現場は絶えず変化しており、自ら考え判断し、行動することが要求されるからです。

現在の日本は超高齢社会を迎え、病気を抱えながら生活をする方々が増加しています。看護の活躍の場も病院のみならず、地域や職場、家庭へと拡大しつつあります。

看護は最も身近にいる医療のスペシャリストとして、一人ひとりの生命・生活・人生に目

を向け、病気や心の変化を的確に把握し、得られた情報を科学的な思考で判断して問題解決できる能力と、他の専門職と協働するコミュニケーション能力が求められています。

看護を実践することは、様々な人々への援助を通して、自分自身を見つめ、自らを磨き、生涯にわたって成長しようとする過程そのものです。大学を生涯の基盤づくりの場として考え、新しい時代の看護に飛躍する第一歩として欲しいと願っています。

なお、本学科を志望される方は理科の選択科目において、「生物基礎」または「生物」及び「化学基礎」又は「化学」を履修されていることを望みます。

各入試における評価内容等は次のとおりです。

A O方式による入試

予め提示するキーワードを基に、知識・能力を活用して作成する小論文により、受験生の思考力・判断力・表現力などの評価を行います。自己推薦書と面接では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。

推薦入試

調査書により受験者の知識・技能の修得状況、特別活動における主体性や協働性、特定分野での卓越した能力などを把握します。小論文、面接では、意欲・思考力・判断力・表現力・主体性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。

一般入試

個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。

大学入試センター試験利用入試

大学入試センター試験の得点に基づき、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力に重点を置いて選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。

【医療保健学部 医療栄養学科】

健康と食生活の関係が重視されていることから、医療現場での管理栄養士の役割はますます大きくなっています。医療栄養学科では、医療の専門家の連携による「チーム医療」の一員として、参画できる管理栄養士の養成を目指しています。現場に強い管理栄養士を育成していくために最も必要なものが医療現場とのつながりで、本学科の臨地実習には、NTT 東日本関東病院をはじめ、多くの病院や高齢者施設などを実習施設として実践的な臨床教育を行います。

また、優れたチーム医療人の育成を図るため、「いのち・人間の教育分野」、「医療の

コラボレーション分野」及び「専門職の教育分野」に関する科目を開設し、医療現場に求められる管理栄養士を育成します。

「医食同源」という言葉もあるように人の健康を守る上で、医と食は切り離しては考えられません。特に、今日の社会は、少子高齢化という急激な変化に伴い、生活習慣病対策は重要であり、管理栄養士はこれまで以上に病気の治療のみならず予防医学の観点から社会の要望に応える必要があります。さらに、医療現場に強い管理栄養士は、病院だけでなく学校、保健センター、福祉施設、事業所、食品会社、給食会社、スポーツ施設など、食と健康に関わる様々な職場でも求められています。

また、教育現場での食育の担い手として、安全な食事の提供を通して健康を支援することも重要です。

そこで、医療栄養学科では、食と健康に関する知識をより深く追求する意欲を持っている学生、人とコミュニケーションができる能力を持ち、社会・地域住民に対して健康の面で貢献したいと考えている学生、大学で学んだことを実生活で一層有効活用したいと考えている学生を歓迎します。

なお、本学科を志望される方は理科の選択科目において、「生物基礎」又は「生物」及び「化学基礎」又は「化学」を履修されていることを望みます。

各入試における評価内容等は次のとおりです。

A〇方式による入試（9月実施）

事前に課題を与えて、知識・能力を活用して、その解決に向けて探究した結果をとりまとめた課題論文により、思考力・判断力・表現力などの評価を行います。自己推薦書と面接では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。

A〇方式による入試（12月実施）

生物基礎または化学基礎を選択して解答する基礎テストにより、理科科目の基礎的な知識・思考力・素養などを評価します。自己推薦書と面接では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行うとともに、面接で基礎テストに関する質疑応答を含むことにより、本学科が求める理科の素養・適性などをあわせて判断し、多面的・総合的に判定します。

推薦入試

調査書により受験者の知識・技能の修得状況、特別活動における主体性・協働性、特定分野での卓越した能力などを把握します。小論文、面接では、意欲・思考力・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。

一般入試（医療栄養学科特別日程）

個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、理科（「生物基礎・生物」、「化学基礎・化学」）の2科目の中から1科目の選択解答する方式により、本学科の求める「理科」の素養・知識などを含めた学習能力を判定します。

一般入試（一般前期日程・一般後期日程）

個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。

大学入試センター試験利用入試

大学入試センター試験の得点に基づき、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力に重点を置いて選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。

【医療保健学部 医療情報学科】

医療情報は、患者さんに最適な医療を行うために用いられ、さらに新たな治療法や機器の研究・開発を的確に行う材料になるなど、医療活動を円滑に推進する原点です。医療を行う医師や看護師、その他の医療関係者、福祉関係者はこれらの情報をもとに方向性を決めます。したがって、医療情報を扱う人は必要な情報を的確に収集、解析、加工し関係者に伝える力と、仕事に対する明確なポリシーや責任感、高い倫理観を持った人材が求められます。医療情報学科は、何事にも積極的に高い倫理観を持つ人を求めています。

病院など医療の現場で、情報がどのように利活用されているかを知ることは、医療情報を的確に医療関係者に伝達し、より質の高い医療を提供するチームの一員となる第一歩です。新しい医療情報の活用や的確で効果的な情報の提供について議論するために、コミュニケーション能力が必要です。医療情報学科は、医療だけでなく広く社会に関心を持ち、自分の考えを積極的にコミュニケーションできる人を求めています。

これからの医療においては、患者さんと医療提供者を仲立ちし、医療現場と企業とを連携するコミュニケーターとしての役割が益々重要となります。医療情報学科は、「新しいことや新しい領域を切り開きたい意欲」と「人間・社会に貢献したい高い志」を持った学生を歓迎します。

本学科を希望される方に対して、高等学校で履修すべき科目や取得が望ましい資格の指定は特にありません。ただし、医療情報を扱うには高い倫理観が必要です。例えば科目「社会と情報」や「情報の科学」の内容に含まれる情報の伝達手段の信頼性、情報の信憑性、情報発信にあたっての個人の責任、プライバシーや著作権への配慮などについて学び、高い意識を持つことを期待します。

各入試における評価内容等は次のとおりです。

AO方式による入試

自己推薦書により、高等学校教育までに育まれた「確かな学力」を中心に、本学が

求める資質についての評価を行います。面接では、意欲・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。

推薦入試

調査書により受験者の知識・技能の修得状況、特別活動における主体性・協働性、特定分野での卓越した能力などを把握します。小論文、面接では、意欲・思考力・表現力・主体性・人間性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。

一般入試

個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。

大学入試センター試験利用入試

大学入試センター試験の得点に基づき、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力に重点を置いて選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科7科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系から理系までの広い範囲や得意とする特定分野があるなど、受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。

【東が丘・立川看護学部 看護学科】

東が丘・立川看護学部では、豊かな感性と実践力を持ち、未来の日本の医療・保健・福祉を支える看護師=tomorrow's Nurseを養成します。

看護師は、患者さんとそのご家族にとって最も身近な医療職であり、チーム医療のキーパーソンとして、患者さんの療養生活を支える役割を担っています。医療の高度化・複雑化に伴って、病気と闘う人々が抱える問題も多様化・複雑化しています。それぞれの問題をタイムリーに把握し、的確に対処するためには、他者に対する感受性に加えて、高度な知識と技術に基づく実践力が必要です。東が丘・立川看護学部では、国立病院機構のネットワークを活かし、臨床現場での実習や他職種との連携・交流を通して、チーム医療を支え、的確な看護を提供するための実践力を備えた、質の高い看護師を育てます。

看護師は、生涯にわたって自分を磨き続け、常に自己開発ができる素晴らしい職業です。看護学を学び、看護の実践を通して自己啓発し、自らのキャリアを開拓・創造する能力を身につけてほしいと願っています。

看護学を学ぶ学生には、生命の尊厳を理解し、知的好奇心をもって看護を探求する姿勢が必要です。基礎学力を備えていることは当然ですが、何事にも興味を持って取り組む姿勢が大切です。本学部ではさらに、看護を通して「自己を開発したい！自分を磨きたい！」という情熱と、未来の臨床現場を担う決意と高い志を持った学生を求めています。

います。

なお、本学科では、1年次の授業科目である「自然科学の基礎」において、物理、化学、生物、数学に関する基礎知識の定着を図っておりますが、入学後、無理なく学修を進めるために、高校においては必履修科目の中から物理基礎、化学基礎及び生物基礎をすべて履修しているか、選択科目（物理、化学、生物）の中から2科目を履修していることを望みます。

各入試における評価内容等は次のとおりです。

推薦入試

調査書により受験者の知識・技能の修得状況、特別活動での主体性や協働性、特定分野での卓越した能力などを把握します。総合問題では、医療・保健・福祉に関する設問を通して、柔軟な思考力・判断力、的確な表現力の評価を行います。面接では、意欲・表現力・主体性などに重点を置いた評価を行って、多面的・総合的に判定します。

一般入試

個別学力検査により、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力を重点的に評価し、選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。

大学入試センター試験利用入試

大学入試センター試験の得点に基づき、高等学校教育で培われた知識・思考力・判断力に重点を置いて選抜を行います。英語を必須とし、それに加えて国語・数学・理科の3教科5科目の中から自由に2科目を選択解答する方式により、文系・理系を問わず受験者の履修状況に応じた学習能力を判定します。

平成29年度入学者選抜試験の一部改正について

1. 趣旨と概要

平成29年度入学者選抜試験（以下、入試と表記）において、医療保健学部医療栄養学科及び東が丘・立川看護学部看護学科の両学科で以下の改正を行います。

(1) 医療保健学部医療栄養学科の改正

医療保健学部医療栄養学科では、さまざまな観点からの学生の確保をめざし、昨今の競合他大学の入学者選抜の動向も見据え、以下の入試制度の改正を行います。

- ① 12月までの年内にAO入試、推薦入試等で適切な入学者数を確保することが、昨今の入学者選抜の流れにもなっていることを考慮し、9月AO入試の募集定員を増員するとともに、12月に新たなAO入試を新設します。
- ② 1月に多くの管理栄養士養成大学で入試が実施されている現状を見据え、1月に一般入試を実施します。試験科目は、英語及び生物基礎・生物、化学基礎・化学のいずれかの2科目とし、学科のめざす理科科目の素養・知識を持つ学生の確保をめざします。
- ③ 2月の一般入試及びセンター利用入試において、選択科目の中で必須としていた理科科目（生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎のうちから1科目）の選択を撤廃し、3教科5科目（国語、数学、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎）から任意の2科目を選択できることとし、より広い範囲からの学生の確保をめざします。

(2) 医療栄養学科での平成29年度入試の概要

①新設の入試の概要

・ 12月 AO入試

募集定員： 5名

試験日： 平成28年12月11日（日）

内容： 自己推薦書、調査書、適性検査、面接等による総合評価（予定）

・ 1月 一般入試

募集定員： 15名

試験日： 平成29年 1月25日（水）

内容： 必須科目 英語

選択科目 生物基礎・生物、化学基礎・化学のうちいずれか1科目
の計2科目

②募集定員

上記の入試新設により、医療栄養学科の募集定員を別表のとおり変更します。

※12月AO入試の内容、各入試の呼称などにつきましては現在検討中であり、入試広報部にご一任いただきたいと存じます。

(3) 東が丘・立川看護学部看護学科の募集定員の変更

東が丘・立川看護学部看護学科では、公募制入試の募集定員を増員し、指定校推薦入試とあわせて、12月までの適切な学生確保をめざします。

平成29年度入試での募集定員は別表のとおりとなります。

【別表】

○医療保健学部医療栄養学科

入試区分	入試実施日	平成29年度	平成28年度
9月AO入試	9月11日(日)	<u>15名</u>	10名
11月指定校推薦入試	11月13日(日)	10名	10名
11月公募制推薦入試	11月13日(日)	10名	10名
12月AO入試	12月11日(日)	<u>5名(新設)</u>	-
1月一般入試	1月25日(水)	<u>15名(新設)</u>	-
2月一般前期入試	2月4日(土)	<u>25名</u>	40名
2月一般後期入試	2月18日(土)	<u>5名</u>	12名
センター利用前期入試	—	<u>12名</u>	15名
センター利用後期入試	—	3名	3名
合計		100名	100名

○東が丘・立川看護学部看護学科

入試区分	入試実施日	平成29年度	平成28年度
11月指定校推薦入試	11月13日(日)	40名	40名
11月公募制推薦入試	11月13日(日)	<u>40名</u>	20名
2月一般前期入試	2月4日(土)	<u>80名</u>	100名
2月一般後期入試	2月18日(土)	20名	20名
センター利用前期入試	—	15名	15名
センター利用後期入試	—	5名	5名
合計		200名	200名

平成 30 年度一般入試制度について

1. 趣旨・概要

○平成 29 年度一般入試において、医療保健学部医療栄養学科で「医療栄養学科特別日程」として試行的に 1 月入試を追加し実施しました。その結果を踏まえて、平成 30 年度入試においては全学部学科（和歌山看護学部、千葉看護学部を含みます）で実施することといたします。

○「医療栄養学科特別日程」では単願とし、入試科目は必須科目の英語と、生物基礎・生物及び化学基礎・化学のいずれかを選択する 2 科目入試としました。結果、医療栄養学科の求める資質として重視する「理科」への関心や素養をもつ一定の学力を有した入学者の確保に結びついております。

○現在実施の一般入試は、入試科目を各学科共通の 3 科目入試とし各学科間の併願を可能とする汎用性のある入試となっておりますが、1 月入試においては各学科の求める特性や学生の資質をより重視して、単願の 2 科目入試にするとともに、昨今求められる高大接続システム改革に基づいた入試改革に資するため、多様な志向をもった受験生の受験結果を踏まえ多元的な観点からの選抜をめざしてまいります。

具体的な実施方法としては、

- (1) 各学科で求める特性を重視するために、追加する 1 月入試についてはそれぞれの学科への単学科出願（単願）とします。（2 月入試は現行どおり併願を可能とします。）
- (2) 試験科目は、英語を必須科目とし選択科目は 1 科目の 2 科目入試とします。選択科目の分野・範囲は、各学科の求める特性を重視して各学科で定めることとします。
- (3) 募集定員は、原則として現在の一般前期入試から 30%~35%程度をシフトします。また、スカラシップ制度の適用枠を現行の一般前期入試から一部移行し、各学科の求める特性に合致し一定の学力を有する入学生を支援します。

2. 背景と理由

- (1) 本学の一般入試制度は、ここ数年来 2 月 4 日に一般前期入試を、2 月 18 日に一般後期入試を実施し、その内容は英語を必須科目とし、選択科目として定められた科目から 2 科目を選択する 3 科目入試となっております。
- (2) 文部科学省からの通知においては、学力選抜の入試のほか多様な入試方法や評価尺度の多元化などが求められており、本学においてもアドミッション・オフィス（AO）入試、推薦入試などの入学者選抜を行うとともに、上記のとおり平成 29 年度入試において「医療栄養学科特別日程」入試を実施いたしました。
- (3) また、高大接続システム改革に対応するため、入学者受け入れの方針において、学力の 3 要素に関し入学希望者に求める能力と評価方法の関係を明確化し、それに基づく入学者選抜の実施へ改善が求められており、検討していく必要があります。
- (4) 受験生の動向を見ると近年少子化傾向が顕著になる中、ここ 2、3 年を見ると看護学科が乱立気味であり、受験生や保護者の間で早めに進学先を決める動きが加速し、AO入試や推薦入試を始めとした早期の入学生確保の動きが見られるほか、競合校の入試日程を見ると添付資料のように相次いで 1 月入試に参入する状況となっております。そのような影響もあり、本学の各看護学科の一般入試出願者数がここ 2 年間減少という結果となっております。

- (5) このような状況を総合的に勘案し、平成 30 年度一般入試においては、各学部・各学科が求める学生の特性や素養を重視した 1 月入試を追加実施することといたします。